

平成20年度「心の輪を広げる体験作文」入賞者一覧

最優秀賞 - 内閣総理大臣賞				
県・市	作品名	氏名	学校名及び学年・年齢	評価メモ
新潟市	【小学生部門】 あなたのひと声で 笑顔の輪が広がります	ながはまいと か 長瀨愛香	にいがた はやどおりみなみ 新潟市立早通南小学校 6年	学校での障害体験や高齢者デイサービスセンター訪問活動など、また、ボランティア活動を通して障害者や高齢者への福祉的気持を学ぶなか、弱い立場の身近な人への思いやりや問題解決を自分だけのものとせず、「助け合い、譲り合いは誰にでもできる」「人の役にたてることのうれしさ」、声掛けの大切さを強く感じ訴え、社会に目を向け、本当にやさしい、しっかりした生徒であると感じた。
鹿児島県	【中学生部門】 たくさんの出会い	ばばそのれお 馬場園怜央	かごしま ほしがみね 鹿児島市立星峯中学校 1年	発達障害の筆者が教師や同級生の暖かい支援によって学校生活に溶け込んでいる様子を生き生きと描いた。筆者の前向きな姿勢に好感が持てる。
愛媛県	【高校生・一般部門】 ありのままに受け止め、 受け入れてくれた子どもたち	のくちりえ 野口理絵	29歳	1年9か月間、指導員ボランティアとして児童クラブでふれあった子ども達が、作者の障害をありのままに受け止める過程を4段階に分類し、その時々自分の想いととも生き生きと記述、その過程を経て離れて1年半たった今も道で出会うと駆け寄ってくる子ども達の姿こそ、共生のあるべき形ではないかと語る。作者と子どもの姿に、暖かさと共に強さを感じさせる作品であった。

優秀賞 - 内閣府特命担当大臣賞

県・市	作品名	氏名	学校名及び学年・年齢	評価メモ
千葉県	【小学生部門】 たいせつにされ、 あいされる	いらい ももか 岩井桃香	せいとくだい がく ふ ぞく 聖徳大学附属小学校 1年	身体に障害のある友達と幼稚園で3年間一緒に過ごした時の思いが率直に描かれている。保育士の「障害に負けたくない子供に」「子供の可能性をとことん伸ばす」「障害児の自立」の願いへの取り組みが、子供心にも大きな刺激となり、戸惑いながらも友達を思いやる気持ちがいじらしい。この素晴らしい出会いを成長の糧にしてほしいものである。
島根県	勇気を出せば	かげやま あゆむ 景山 歩	ひかわ ちゅうぶ 斐川町立中部小学校 6年	祖母の来客で目に障害のある方が家に来られた時の体験。人見知りで恥ずかしがりやの自分が、その障害を持った人に接したことで、外でも勇気をもって主体的に声かけができるようになった。そして、人のやさしさをたくさん感じれるようになっていく様子や心の成長がうまく表現されている。
群馬県	私の友達	おおた みなみ 太田 南	まえはし いわがみ 前橋市立岩神小学校 5年	障害を持った幼な友達を通して、思いやる心と障害への理解及び友達との触れ合う様子がありのまま描かれている。重い障害があっても、その人の暖かい心にふれる喜びを障害を持たない人に伝え、理解してもらいたいという強い気持ちが、将来養護学校の先生になりたいという希望にあらわれている。
北海道	【中学生部門】 みんなちがって、 みんないい	やくち しゅう 矢口 周	ほっかいどう きょういくだいがく ふ ぞく 北海道教育大学附属 函館中学校 2年	「障害は個性」。よく聞く言葉だが、筆者なりの深い考察が、両親や障害者とのかかわりからめて示されている。教育には周囲の大人の姿勢がいかに大切か思い知らされる作品。
札幌市	心できく	すぎやま まほ 杉山茉芳	さっぽろ まこまない あけぼの 札幌市立真駒内曙中学校 2年	友人の父が聴覚障害者であることを知らずに、一方的に非難していた筆者が、心を開いていなければ何も聞こえていないのと同じだと気づくまでを素直に描いた。
兵庫県	僕のお母さん	のうだ ともひと 納田智仁	おの おの 小野市立小野中学校 1年	難病の母親を持つ筆者が、障害者に理解を深めていく様子が丁寧に描かれている。

優秀賞 - 内閣府特命担当大臣賞

県・市	作 品 名	氏 名	学校名及び学年・年齢	評 価 メ モ
仙 台 市	<p style="text-align: center;">【高校生・一般部門】</p> <p>Sさんの、 あの笑顔は忘れない</p>	<small>おおるいたかし</small> 大累貴司	31歳	<p>在宅の重症心身障害者が通う施設の職員である作者が、1時間ごとに疲の吸引を受けなければ生命を保つことができず、いつも苦痛に耐え、笑顔を見せることがなく、話すことも書くこともできないSさんのかすかな表情を見逃さずに、選挙の投票を実現させた経緯と、その時に見せたSさんの笑顔をまとめている。そして職員だからこそ常にアンテナを張り、障害がある人の自己実現を支援することの大切さを述べている。生命を維持することになされる処置が、絶え間なく苦痛に伴う方の日常からは、如何にも遠いと考えられる政治がSさんにとって、そんなにも喜びとなることに大変驚いた。と共に、作者の観察と実践力および姿勢に感銘した。</p>
千 葉 県	出発、これからの私	<small>いししまりこ</small> 石井麻莉子	25歳	<p>精神病を発症してから約2年間の自宅療養を経て職場復帰を果たした作者が、専門家や家族、友人、職場の人たちに助けられながら、精神障害者としての出発点に立ったこと、そしてこれからの自分の生き方にも希望を持つに至ったことを、まるで自分に言い聞かせるようにまとめている。作者の素直な気持ちが書かれていて共感を覚えた。</p>
静 岡 県	働く喜び	<small>おおいしみちこ</small> 大石道子	33歳	<p>10年前に統合失調症のために大学を1年で中退し、その後社会復帰のための段階的な就労経験を経て、現在の会社で働いている。作文は主として会社での上司や同僚達が必要な配慮はしながらも、作者をありのままに受け止める様子と共に、理解され認められて、仕事ができることの喜びを表現している。</p>

佳 作

県・市	作 品 名	氏 名	学校名及び学年・年齢	評 価 メ モ
仙 台 市	【小学生部門】 大すきな兄弟からもらう 温かい心	<small>すずき みのり</small> 鈴木美紀	<small>せんたい よしなり</small> 仙台市立吉成小学校 4年	4人の兄弟姉妹のうち2人が障害を持つ家族構成である。自閉症の兄と発達障害の妹との成長過程において、世間の無理解な言葉や態度と出くわしながら、説得力あるお姉さんのおおらかで暖かい言葉に励まされ、兄弟姉妹の絆も固く、自分に言い聞かせながら成長して行く様子がありありと書かれている。お姉さんの勇気ある一言が支えとなり、心のバリアフリーで笑顔を一杯の社会へと使命感が伝わってくる。
名 古 屋 市	目の不自由な人と生活をして	<small>おか だりょうま</small> 岡田竜馬	<small>なご や めいじょう</small> 名古屋市立名城小学校 5年	カナダにホームステイし、目の不自由な一家の主が大きな銀行に勤めるという日本では考えられないようなことが可能なのはなぜかと考える。障害者本人の努力と家族の支えのほか、背景に譲り合いと感謝の社会風土があることを観察、そのみずみずしい感動を素直に伝え、日本社会のあり方にも及ぶ作文になった。
鳥 取 県	二人の友達から学んだこと	<small>くら もと もも か</small> 倉本萌々花	<small>ゆり はま はわい</small> 湯梨浜町立羽合小学校 5年	障害を持った二人の友達に接する際の自分の考えをしっかりと持ち、また、保育所での福祉体験では、保育士が障害児も障害の無い子にも差別無く一人一人の園児を大切に、そして、普通に接していることに感動し学んで行く様子がよく書けている。
岡 山 県	みんな同じ人間	<small>やまさき れん</small> 山崎 蓮	<small>あさひ がく えん あさひ じゅく</small> 朝日学園朝日塾小学校 2年	体が不自由な人と触れ合うことにより、障害がある人のことをよく知り、「自分から進んで助けてあげよう」という子供らしいやさしさと素直さが心の生長に感じられる。
東 京 都	笑顔	<small>なが の りり</small> 中野莉里	<small>みたか だいご</small> 三鷹市立第五小学校 5年	障害を持つ弟が、友達との交流の場を広げて行く中で、障害の有る無しにかかわらずいろいろな友達との心の交流を広げることが大切であり、そのチャンスを阻むことは許せないと社会意識が育てられていく様子が新鮮に書かれている。

佳 作				
県・市	作 品 名	氏 名	学校名及び学年・年齢	評 価 メ モ
山 形 県	【中学生部門】 祖父母に伝えたいこと	えびなゆきの 海老名ゆき乃	むらやま たておか 村山市立楯岡中学校 3年	「孫に何もしてやれない」と嘆く障害者の祖父母。筆者が、人間はその存在自体が尊いと気づくまでを家族とのかかわりを通して情感をもって表した。
滋 賀 県	あの子に出会って	いがまなみ 伊賀真奈美	おおつ ひよし 大津市立日吉中学校 3年	保育園での職場体験で出会った障害児の素直なやさしさとそれに対する筆者の心の動きが印象的に伝わった。
群 馬 県	障害を乗り越えて	あやま じゅん 小山 潤	まえばし あずま 前橋市立東中学校 2年	学習障害の筆者が学校生活を通して、自分に自信を持って生きると決意する。前向きな姿勢に読み手も勇気付けられる。
新 潟 市	後悔をばねにして	かとう あや 加藤 綾	にいがた はくしん 新潟市立白新中学校 3年	聴覚障害者の両親との葛藤と和解から、健常者、障害者とも思いやりの気持ちを持って接することの大切さをさわやかに描いた。
岐 阜 県	おじいちゃんの右手	にしでらなつみ 西寺なつみ	たじみにし 多治見西高等学校 附属中学校 1年	祖父が障害を乗り越える強い姿に、障害者側からの心の輪を広げる働きかけを見た筆者。祖父の力強い生き方が伝わった。

佳 作

県・市	作 品 名	氏 名	学校名及び学年・年齢	評 価 メ モ
広 島 市	【高校生・一般部門】 信頼しているから	<small>からすだ ゆたか</small> 烏田 豊	30歳	知的障害のある作者にとっては、仕事をこなすこと、上司と話すこと等が大変である。仕事の内容とそれを間違えずにこなすことが如何に大変かについて書いていて、真剣に仕事に向き合う作者の責任感が伝わってくる。またマネージャーが作者を叱る時のことばがせりふとしてそのまま表現されていて、読む者にもことばにこもる優しさが伝わってくる。そして「がんばれ、信頼している」のことばがどんなに作者を勇気づけているかもよく分かった。
鳥 取 県	「先輩と パソコンボランティアに 支えられて	<small>だいでうしんいち</small> 大道進一	67歳	失明時すでに65歳にもかかわらず、退院と同時に音声パソコンを学習し、さらにインターネットにアクセスすることに成功するまで、「先輩やパソコンボランティアの支援を受けながら、失敗にくじけず努力し続けた作者の前向きな姿勢に驚かされる。それだけに満足せずに、さらに新たなことにチャレンジして自分の世界を広げて充実した毎日を送っており、勇気を与える作品であった。
佐 賀 県	先生のぬくもりと私の夢	<small>ふるかわさき こ</small> 古河咲子	<small>まが うしづ</small> 佐賀県立牛津高等学校 2年	作者が小学校5年生の時に会った盲人の治療師が、子どもである作者と大事に向き合い接してくれたこと、「自分は目が見えないけれど耳も鼻も手もあるからまわりのことがよく分かる」と説明した記述の中に、読む人にも、障害を受け止め淡々と相手を大切に生きている障害者の姿を見ることができ感銘した。作者はまだ16歳であるため十分に今の自分の夢とのつながりを考察できていないが、しかしこのときの治療師の生き方が作者の生き方に影響を与えていることが推察され、一つの体験が大きな輪を広げていることを示していた。
宮 城 県	障害者の音楽 世界へ	<small>あべひろこ</small> 阿部弘子	51歳	ピアノパラリンピックの存在とそれを主唱するNPO法人日本障害者ピアノ指導者研究会を初めて知った。しかも国際的な普及と啓発のための活動を2年に1回海外で開催していること、さまざまな障害を抱えながら、障害があるにもかかわらずではなく、むしろ力強い生き方を反映するかのような演奏が、また演奏することそのことの喜びが聴衆に感動を与えていることが語られていた。
神 奈 川 県	私と手話	<small>むらかみれいのすけ</small> 村上禮之助	79歳	作者は高齢でしかも下肢に障害あるにもかかわらず、聴覚障害者と出会うことによって、手話を学び、上手ではなくても機会があればそれを使うことをためらわず、そして聴覚障害のある方とコミュニケーションをとる様子(「上手」「下手」の手話のやりとり)が生き生きと表現されていて、読む者に勇気を与える。